

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第7回松阪市教育ビジョン検討委員会
2. 開 催 日 時	令和4年1月18日（火）13時00分～14時20分
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局 教育委員会室
4. 出席者氏名	（委 員）◎竹内委員、○松江委員、浅沼委員、小濱委員、齋藤委員、坂口委員、島津委員、鈴木委員、瀬古委員、村上委員（◎会長 ○副会長） （事務局）中田教育長、鈴木事務局長、村田事務次長、中西参事兼教育総務課長、藤武参事兼生涯学習課長、刀根参事兼スポーツ課長、永田参事兼給食管理課長、塩野学校教育課長、大辻参事兼学校支援課長、小泉子ども安全・安心担当監、脇葉学校支援課教育課程係長、北嶋主幹兼教育総務課教育政策係長、南教育総務課教育政策係主任
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	2人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局教育総務課 TFL 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- ・松阪市教育ビジョン（答申案）について
- ・これからの松阪市の教育について

議事録

別紙

第7回 松阪市教育ビジョン検討委員会議事録

1. 日 時 令和4年1月18日（火） 13時00分～14時20分
2. 場 所 松阪市殿町1315番地3 松阪市教育委員会事務局 2階 教育委員会室
3. 出席者 委 員：竹内委員、松江委員、浅沼委員、小濱委員、齋藤委員、坂口委員、
島津委員、鈴木委員、瀬古委員、村上委員
事務局：中田教育長、鈴木事務局長、村田事務次長、中西参事兼教育総務課長、藤武参事兼生涯学習課長、刀根参事兼スポーツ課長、永田参事兼給食管理課長、塩野学校教育課長、大辻参事兼学校支援課長、小泉子ども安全・安心担当監、脇葉学校支援課教育課程係長、北畠主幹兼教育総務課教育政策係長、南教育総務課教育政策係主任

4. 内容

- (1) あいさつ
教育長あいさつ
- (2) 協議事項
 - ・松阪市教育ビジョン（答申案）について
 - ・これからの松阪市の教育について
- (3) その他

内容は以下のとおり

事務局 本日は、公私ご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。初めに、松阪市教育委員会教育長、中田雅喜よりご挨拶を申し上げます。

教育長 (あいさつ)

事務局 次に、配布資料の確認をさせていただきたいと思います。本日配布させていただきました資料は、事項書と松阪市教育ビジョン答申案（1.18ver.）でございます。協議に入ります前に、事務局よりお願いが一点ございます。新型コロナウイルス感染症に関しまして、オミクロン株の感染拡大があり、急速に第六波が押し寄せております。三重県におきましても、政府に対してまん延防止等重点措置を要請しており、近く対策本部が開催され、適用について協議されることが報道されています。そこで、第7回松阪市教育ビジョン検討委員会につきましては、感染症対策を徹底するとともに、事務局の出席者を減じるなどの対策を講じております。検討委員の皆さまにおかれまして

も、できる限り短期間で協議にご理解、ご協力をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。なお、金児委員につきましては、所用のため欠席の連絡を受けておりますので、ご報告をさせていただきます。

それでは次に協議事項に入らせていただきます。この後の進行につきましては、竹内委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしく願いいたします。

委員長 皆さん、こんにちは。コロナ禍で、なかなか今までの会議も思うように進まない部分がありましたが、ここまでこられたのも委員の皆さんの協力のおかげだと思っております。今日は時間が大体 60 分程度ということで、委員の皆さんから意見を出していただきまして、中身の濃い会議にしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。それでは協議に入っていきます。

協議題は、事項書にあります「松阪市の教育ビジョン（答申案）について」の協議と、「これからの松阪市の教育について」です。委員さんから、いろんな松阪市の教育への思いを語っていただきたいと思っております。それでは協議に入りますが、協議題について事務局から説明があるということですので、事務局、よろしくお願いいたします。

（事務局の説明）

委員長 それでは一つ目の協議題は、「松阪市教育ビジョン（答申案）について」です。委員の皆さんからご意見をいただき、協議を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。前回の会議の中でも、委員さんからいろいろ意見を出していただきました。その中で修正等をしていただきましたが、いかがでしょうか。加筆修正していただいた人権教育の件、それから健康教育にはいわゆる性教育の視点も踏まえて入れていただきました。また、地域とともにある学校づくり、教職員が働きやすい環境づくりということで「教職員が子どもと向き合う時間」という表現をし、教職員研修会等も含めて充実させていこうということでもあります。どうでしょうか、順番に進めていきますか。

「1 幼児教育の推進」から、どうでしょうか。よろしいですか。じゃあ次の「2 子育て支援の推進」のところはどうでしょうか。これは「基本方針 1 一人ひとりの個性を大切に、意欲的に未来を切り拓く子どもを育てます」に関連してのところになっております。あと、「3 学力の育成」、「4 グローバル教育の推進」、「5 教育の情報化の推進」、「6 外国人児童生徒教育の推進」、

「7 特別支援教育の推進」というようなところが「基本方針 1」に関連しております。どうでしょうか。よろしいですか。

続きまして「基本方針 2 ふるさと・松阪に誇りをもち、豊かな心と自主性や社会性を備えた子どもを育てます」ということなので、まず「8 道徳教育の推進」、それから「9 郷土教育の推進」、「10 人権教育の推進」、「11 キャリア教育の推進」、「12 環境教育の推進」、「13 生徒指導の充実」、「14 安全教育の推進」、「15 防災教育の推進」、「16 体力の向上」、「17 健康教育の推進」、「18 食育の推進」となっております。様々な視点で教育推進と出ていますが、いかがでしょうか。前回も出た具体的な活動、それからその成果の評価についての意見も出ていたと思うんですけど、よろしいですか。何かあればまたよろしく申し上げます。

「基本方針 3 夢と希望をもち、可能性を最大限に発揮できる教育環境の整備をめざします」のところになりますけど、「19 地域とともにある学校づくりの推進」、それから「20 教職員が働きやすい環境づくり」「21 教職員研修の充実」、「22 学校施設の充実」になっております。今度は教育環境の方に入っております。学校主体、それから教職員の働き方について等がメインになっている。あと施設設備関係になっておりますけど、よろしいですか。

次に「基本方針 4 スポーツや文化の振興を図るとともに、誰もがいつでも学び、活躍できる環境づくりに努めます」です。「23 生涯学習の推進」、そして「24 読書活動の推進」、「25 青少年健全育成の充実」、「26 生涯スポーツの充実」、「27 スポーツ環境の整備」、それから「28 文化芸術の振興」、「29 文化財の保護」となっております。今盛んに言われている生涯教育について、松阪市としても学校だけじゃなくそういったその他の教育活動というのはいろいろ入ってくると思います。あとは、これらの取り組みを進めることにより SDGs の 17 の目標の達成に寄与できることが増えておりました。

ご意見等、いかがでしょうか。

委員 前回の最終案に対して、ここでいろんな議論をしてそういう部分に対して修正されましたので、これでいいかなと私は思っていました。

委員 私も同じで、今言っていたことは盛り込んであるなというふうに見させてもらっています。

委員 前の意見を入れていただいて、その教育ビジョンが松阪に浸透していくことをぜひ祈っているところです。

委員 ここで議論してきたことを盛り込んでいただき、また修正案を出していただいて、まとめていただきましたので、特に異議はないです。

委員 今までここで話し合いをさせてもらってきた意見が、うまく回って実現していく方向に向かっていくのがいいなと思っています。

委員 私も一緒の意見です。

委員 特に異議はございません、皆さんと同様でございます。

委員 すみません、教えてください。公民館はこれからどうなっていくのでしょうか。公民館と住民協議会の関係は今までと変わるのででしょうか。そこら辺はビジョンに影響はあまりないかな？公民館とかがぎくしゃくするような感じをしないでもないけど、どうなのだろう。それをちょっと教えてほしい。

委員 「23 生涯学習の推進」のところで、公民館のコミュニティセンター化を考慮に入れた生涯学習の充実ということを知っている。

事務局 先ほど委員におっしゃっていただいたように公民館は社会教育法の括りで、市町村が設置できる法的な手続きを経ます。昭和 24 年の社会教育法から公民館活動はなされておりました。松阪市においては 46 館の公民館がございます。今、両委員さんがおっしゃいましたコミュニティセンター化というのは、公民館と博物館、図書館、分館も含めて教育委員会から市長部局へ移管することができることを指しています。公民館は社会教育法の 23 条等によって制限があり、使いにくい施設であると、ちょっと間違った感覚でとらえていらっしゃる方が多いのですが、他の市町なんかでは公民館をコミュニティセンター化して、もう少し市民が自由に使いやすい施設に変えていこうとする流れがあります。松阪市におきましても、今年の 4 月 1 日から住民自治協議会という新たな組織が立ち上がりまして、自治連合会と公民館の三つが一体となった地域づくりの拠点施設を目指していこうっていう方向になっているところでございます。教育としては、どういう施設になろうと脈々と築いてきた公民館活動を守っていく必要がございますので、社会教育法上の公民館という形がなくなったとしてもコミュニティセンター条例に基づく公民館活動をしっかりと維持ができるようにいろいろ連携をしているところです。実際に、地域づくり連携課が選定した公民館で、モデル的に検証を行うことになっています。令和 4 年度には教育も含めて何をお願いす

るかという仕様書づくりを、令和5年にはモデル館がいくつか選定され、地域の住民が運営する公民館活動をやってみて、どのような問題点が出てくるのか、その問題点を解決しながらできるところから行います。令和6年度、日程ははっきりわかりませんが、ショッキングな言い方で恐縮ですが公民館を廃館して、コミュニティセンターにしていくという考えになっております。

私個人の意見で申し上げたいんですけど、公民館で言う社会教育法上の公民館活動とコミュニティセンター条例による公民館活動の区別がつきにくい。私は社会教育法に基づく公民館活動が重要だと訴えてやってきたんですけども、なかなかそこが伝わらなくて、同じであればコミュニティセンターの方が使いやすいからいいじゃないかという議論がされてしまいました。これから教育委員会としても公民館活動をしっかりと担保できるような、公民館長・主事の保障も含めて、令和4年度には仕様書の中にそういう趣旨を入れてもらうように努力をしていきたいと思っております。

委員 もう一つ、教育委員会への要望です。午前中に宝塚古墳で埴輪の入れ替えをやっていたのですが、ちょっと荒れようが気になりました。もちろん冬の落ち葉で汚いことは汚いけど、文化財保護の面からいくともうちょっと手を入れてほしいです。草がこんなに茂っているときみたいな悲惨な状態だね。あれは誇るべき松阪の遺産、財産だと思うので。65ページに書いてあるのだけれども、文化財の保護っていう意味では、いまいち寂しい状態です。もうちょっとお金をかけて整備してほしいなと思うんですが、どうですか。

教育長 文化課と幼稚園は市長部局へ移管されたので教育委員会事務局から所管は外れています。しかし委員がおっしゃっていただいたことはまさに真髓かなと思います。いろんなアンケートをとってみると、子どもたちが20歳になったときに市内で誇れるものとして、松阪の偉人の方、それと松阪の古墳が挙がってきています。大切にしていることは、今受けている教育を自分の子どもにも受けさせたいと思ってもらえる教育を提供することです。松阪市が今までずっと先輩たちが作り上げてきた汗や涙、熱が伝わるような文化・伝統といったものがやっぱり教育の元になっていくのかなと思っています。委員がおっしゃったことは、私の方から関係部局にしっかりと伝えさせていただくとともに、所管は他の課に移りましたがビジョンにも、この項目は継続してございますので、さらに充実させていきたいと思っております。

委員長 ありがとうございます。文化の振興も、このビジョンの中に掲げております。教育委員会としても、積極的にバックアップをお願いしたいと思います。

あと、よろしいでしょうか。それでは、松阪市教育ビジョン答申案についてご承認いただける方は拍手をお願いします。

(拍手)

委員長 ありがとうございます。本日、松阪市教育ビジョン検討委員会終了後に、私の方から教育長に答申させていただきます。ありがとうございます。それでは次の協議事項の方に移らせていただきます。委員さんにいろんな形で関わっていただきまして、いくつか視察もして参りました。松阪市の教育について考えることもたくさんあるかと思えます。まず、二つ目の協議題を事務局の方から説明していただいて、それぞれの委員さんからご意見をいただきたいと思えます。事務局、よろしくをお願いします。

(事務局の説明)

委員長 先ほども事務局から説明していただきましたけど、いろんな思いもあったと思えます。またこの場で教育長の熱い思いも伝わってきたと思えます。そういったことも含めましてそれぞれ委員さんの方からご意見、感想等お聞かせいただきたいと思えます。それでは順番に指名させていただきます。よろしいでしょうか。

委員 私は、松阪市の中学校でずっと勤めさせていただいて、そしてその現場を離れて今6年目となります。そのような時にこのビジョン検討委員会に入らせていただきまして、本当にいい機会をいただいたなと思っております。私自身も久しぶりに、学校であったことやいろんなことを振り返ったり、思い浮かべたりしながら検討させていただくことができました。自分が現職でいるときも、新しい取り組みが始まったり、様々な課題があったりと、対応していくのが大変だった時代でもありましたが、今を見せていただきましてもこの感染症の拡大とか、予想のつかないような社会になってきておりまして、学校現場の中ではご苦労があるのではないかなと思えます。教育長のご挨拶にもありましたように、教育の果たす役割はすごく大切だと思えますので、ビジョンが一つの拠り所になればと思えます。前回、こんなにたくさん本当にできるんだろうとか、大変だなんていう話が随分出たと思えます。やっぱり学校を見ていますとそれぞれの学校、それぞれの地域によって特徴もあるし、課題もあります。そしてその学校一つひとつには、一人ひとり豊かな個性を持った子どもたちが学んでいますのでそこで必要な支援とか、学びっていうのも、ものすごく幅広くあると思うのです。そのためにはやはりこれ

ぐらいのボリュームのビジョンがやっぱり必要になってくるのかなと考えます。目の前の子どもに合った形で、このビジョンをうまく一つの拠り所として、各学校で指導していただけたらと思います。何もかもを、とすると難しいので強弱をつけながら使っていただけたらなと思います。そして、自分が現職のときもたくさん教育委員会の方にご指導、ご協力をいただいていたので、これが実現していくために、教育委員会の方も学校の方をしっかりと支援していただけたらなと思います。

それからもう一つ、自分の立場で反省ですが、地域学習は結構大事にやってきたつもりではいるんですけども、やはり外へ出てみると、松阪の歴史や文化についてまだまだ取り組みが足りないというか自分自身の知識が少なかったなと思います。今は学校だけですべてを担うときではありませんので、ぜひとも専門的な機関とか地域の人力を借りて、子どもたちが知る機会を設けられたらなと思います。今の立場で、子どもたちに伝えていけることを精一杯伝えていきたいなと、この会議で改めて思いました。

委員

私は学校や幼稚園の現場には携わってなくて、今回外部からということで委員会に入らせていただきました。小学校や中学校に講演会で行かせてもらって、保護者や子どもたちの声を聞いていく中で、先生方が本当に大変だになってことを日々感じます。講演会で会う子どもたちはすごく素直で本当に明るく感じるんですけども、子どもたちがそれぞれに抱えている問題もあるんだろうなと、時々垣間見ることがあり、現場の先生方がその子たち一人ひとりに対して一生懸命向き合っている姿を目の当たりにしました。先生方に今回この2年かけて話し合ったものを全部やってくださいって言うと、多分先生の余裕がなくなってしまうと思うので、それぞれの先生方が目の前にいるこの子たちにまず今年はこれを全面的に出そうとか選んで取り組んでもらえたらと思います。現場の先生方、先生方から子どもたちに繋がって、子どもたちからご家族の方にきちんと伝わるような取り組み方をしていただきたいです。そしてそれを全部学校の責任であつたりとか、父兄の責任であつたりとか、現場の責任だけにするのではなくて、松阪市の周りの大人たち全体で松阪市の子どもたちを見守ってあげられるような地域になっていったらいいなあとと思っています。なので、私は小中学校、幼稚園にも子どもはおりませんが、だんだん地域の子と交流を持って接していきたいなと改めて感じました。

委員

2年間委員をさせていただきましてありがとうございました。私はそういう学識経験者のような教育というものの知識がございません。そういった者

が一言何かを言ってしまって、大きく松阪市の方針が変わってしまわないかすごく怖くて、正直、いいのかなという気持ちをずっと持ち続けた2年間でした。携わせていただいて、皆様のご意見を集めた教育ビジョンというものが存在していることを初めて知りましたし、その中身についても非常に良いものだなと実感しております。ぜひ実現ができるといいと思いますが、先ほど他の委員の方からもいただいた通り、先生、教育委員会の皆さんをはじめ、それぞれの方の負担にならないことを一番願っております。子どもたちには皆さんの力が必要ですので、健康を損なうようなことになっては絶対いけないと個人的に考えております。今後、私としても何らかの形で子どもたちの教育には携わっていこうかなと考えておりますので、その中で一つでもこの教育ビジョンにつなげるようなご協力ができればと思っております。

委員

私は、前期も教育ビジョン検討委員を務めさせていただいた経緯があります。今期の2年間で、一つ私が嬉しかったのは当初、学校に行って現場でいろんなことをさせていただいたことです。我々は学校の教師でもないのでそういう現場に行って現場の声を聞いて、こういった教育ビジョン検討委員としての意見を出し、やっていくということは非常に良いやり方だったのかなと感じております。あと、我々50年前の人の教育と比べて、本当に様相も変わってきているし、そういう中で、子どもたち、あるいはその先生が大変な時代なんだと感じているところです。こういう教育ビジョンの基本計画を元に、地域の方からのバックアップが非常に必要な時代なのかなというふうに感じていますので、ぜひとも学校だけじゃなくて地域の方も、そういうところへ参画してやってく方向で進めていただければと考えております。

委員

2年間ありがとうございました。自分は小学校の校長として携わりましたが、小学校だけじゃなくて幼稚園とか、中学校の様子、各地域の特色ある取り組みや市のいろんな施設を見させてもらって、自分個人としては視野が随分広がったかなと思います。2年間で学んだことはいろんな立場で伝えていきたいです。学校にいるメンバーは本当にいろんな人に支えていただいているという思いを常に持ちながらやっています。このビジョンの検討でもそうですし行政の方も含め、本当にありがたいなと思っております。今日も実は午前中に、地域の何ヶ所か公民館とか郵便局とかコンビニに入って、「学校の子どもたちが来たいんです」って話をしてきました。この時期は難しいかなと思ったのですが、快くこんなことができるというお話をさせていただいて、本当に多くの人に支えられていると改めて感じています。私がいつも子ども

たちに言っているのは、「夢を持って、目標を持って歩んでほしい。それを実現できる力をみんなで育てていかなければいけない」ということです。また、ここで学ばせていただいていることも、自分自身の立場で子どもたちに返していきたいなと思っています。

委員

私は教員という立場でここに携わらせていただきました。学校にいと学校のことだけで余裕がなくなって周りが見えてなかったのですが、ここに来させていただいたことで、視野が広がって、子どもたちのためにたくさんの人や地域の人たちがこのように関わってもらっていることを実感することができました。この委員会の最初に、子どもたちの自尊心が本当に低いというお話をさせてもらったんですが、その自尊心を高めることもそうだけれどもやっぱりこの地域に誇りを持つということもすごく大事なんだなと感じました。地域が好き、自分が好きという気持ちが、自分の子どもにも松阪で同じ教育を受けさせたいと思うことや、この教育ビジョンのもとになっている松阪の人づくりにすごく繋がっているんだなと学ばせていただきました。今の子どもたち、今の時代に何が必要なのか、その課題と必要性を見極めてこの教育ビジョンに戻る教育ができたかなというふうに感じています。その中で子どもたちが、松阪が好きだなんて感じられるような教育を進めたいです。

委員

令和2年7月31日、生涯学習課長が直々に図書館に来られて、館長の仕事だからということで承ったんですが、教員の経験もないし、お役に立てるのかなと思いながら不安と勉強の毎日でした。グローバル教育の見学をさせていただいてから、図書館でも英語の多読のコーナーを作ることができました。当時、三雲地域の先進的なICT教育を見させていただいて、図書館でも子ども向けのホームページを作ることができました。この経験を活かして図書館サービスも加えさせていただいたので、すごく良い経験になったと思っています。教育現場でいろんな意見が出てくるとは思いますが、そのときに迷ってしまったときの羅針盤というか基本理念として、この教育ビジョンを使ってもらえたらいいと思います。大人が経験していない、大人が答えを出してあげられないこともこれからどんどん出てくると思うんですけども、その時に子どもたちにとって何が必要になるかという哲学ですよ。基本理念があって、子どもたちにいろんなことがあっても迷わないことを教えてあげられる教育であってほしいと思っています。

松阪のいいところはやっぱり本居宣長さんが生み出した土地だということですね。本居宣長の研究をされている本山幸彦先生は「宣長の学問は若き

日の京都で味わった青春の情感を抜きにして語れない。この情感が、平安の和歌、物語の中で確実に追体験されたとき、宣長のもののはれの思想が生まれる」とおっしゃっています。学校で学んだこともどこかの場で追体験することが、その子たちも血となり肉となるということだと思います。松阪でも、文化財センターをはじめ、本居宣長記念館や松浦武四郎記念館などいろんな施設がありますからその力をお借りして、図書館活動を続けていけば少しは子どもたちの糧になるかなと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。

委員

前々から私は、教育はロマンなんだとよく口にしています。教育を考えたときに、20年30年後の社会を考えながらしていくことが一つだし、もう一つは学校現場の目の前にいる子どもの課題があるならばそれをしなくてはいけない。私はコミュニティ・スクールと関わってから10年が経ちました。「鎌田中学校、第四小学校、港小学校でコミュニティスクールをやってください」と当時の教育長が言ってきたときには「面倒くさいことを持ってきて」と彼にはずいぶん怒ったんです。しかしそれでずいぶん勉強もさせていただきました。もう30年ぐらい前から学校だけでは限界がきていて、今の教育課題は教職員だけでは解決できないのです。では、誰の力を借りるのか。それは地域であり、保護者であり、いろんな教育機関の力であると言って開かれた学校を作ろうとやってきました。SOSを出して助けてくれと言うのは20年前の時代の話であり、今は、助けてもらうには一緒にやろう、地域も学校も同じ立場に立って、ここの地域の子どもはどうするのか考えてやっていこう、というのがコミュニティスクールの考えです。この検討委員会では、20年30年後の社会はどうなんだということを絶えず思いながら議論してもらったと思います。特に、コロナの後の社会は激変しているし、今までの常識では対応できないような時代がもう来ているわけです。その時に学校が耐えるかどうか、ちょっと心配もあります。

それからもう一つ、鎌田中学校ができました。まさにあれがコミュニティスクールで、我々が議論してきたことを形にして作ってもらったわけです。松阪市や教育委員会にすごいものを作ってもらいました。これを有効に活かすように、これからの松阪の一つのあり方、学校のあり方のビジョンを形で示したのが鎌田中学校だと思います。コロナで全国へ発信できなかったんですけど、何とか収まったら発信していただきたい。全国から見に来ると思うんです。私の知り合いは、静岡や高知から行きたいと言っています。学校の中に公民館のようなものがあるって、地域の人たちが絶えず学校に来ているという状態を他の地域でも作っていくことがこれからの松阪の方向性じゃない

いかと思います。千葉県の習志野市の秋津小学校は 20、30 年近く、コミュニティスクールのようなことをやっているんですがそこでは学校の鍵を何人かが持っているんです。それで、その人たちが責任を持って管理し、使う。それぐらい地域と学校が一体になっているところもあります。鎌田中学校も、土日でも自由に使えるような状態にするとか、責任者が鍵を持っていけばいいわけなんです。学校との関わりも信頼がなかったらできないですから。教育で一番大事なのはやっぱり信頼だと思うし、どういう形であれ建物ができて、中身を使いやすくこんなふうにしたら地域とともにある学校ができますよって日本中に示すことは必要ですのでぜひお願いしたいと思います。

委員

まずは皆さんに感謝を申し上げたいと思います。おそらく仕事の言う、私が一番教育に距離がある立場にいるんだと思います。皆さんからいろんなご意見を伺うことで、非常に大事なことをたくさん勉強させていただきました。ありがとうございます。

私は私なりに今後松阪の教育としてどんなふうに子どもたちに機会を与えていくのがいいのかと、常日頃から思っています。子どもたちの機会として一番足りないと感じるのは、芸術、音楽や美術に触れる機会です。やはり子どもの頃からそういったものに触れていくことで、育まれるものは確実にあるはずだと思います。そういった努力を松阪でも、もうしていることだと思いますが、これからは積極的にやっていったらどうかと個人的に考えています。

それと、委員さんから地域との連携という話がございました。熱い話ですね。私もそれに関しては同感で、パッと思い浮かんだのは運動会ですね。特にコロナ禍ですので、例えば第一小学校だったりすると、学年別に家族の入場制限をかけて、一家族何人までしか入れないなど、非常にかわいそうな環境の中で運動会とかやっています。自分の記憶で考えると、運動会は子どもたちだけのイベントじゃなかった。まさに地域の一つのお祭りみたいなもので、おじいちゃんおばあちゃんまでみんなが一生懸命見に来て、極端なこと言うと親だけの競技とかもいっぱいあったりしました。委員がおっしゃる地域との連携になるのかどうか分かりませんが、地域ぐるみで子どもを教育していこう、子どもの成長を見ていこうという現れだと思いながら、委員のお話を聞かせていただきました。私にとっても本当に貴重な 2 年間でございました。私の子どもも大きくなって、教育というものから何となく自分の位置づけが離れていたのが、これでまた一気に地域ぐるみで考えないといけないなという気にさせていただきました。2 年間ありがとうございました。

委員 何年か前に、朝6時半に集合がかかって7時から始まる商工会議所の理事さんの朝の勉強会で、コミュニティスクールのお話をさせていただいたことがあります。全く関係のない学校のコミュニティスクールについて話してくださいって言われて、松阪の商工会ってすごいなと思ひましてね。それでぜひ商工会も、皆さんで応援してもらえるとありがたい。

委員長 2年間、委員長という大役を承りまして、大丈夫かなという思いがありましたけど皆さんの協力で、無事務めさせていただきました。いろんな教育現場を見たら本当に多方面に見ていけないといけないと思いました。もう本当に、考え方はたくさんあります。私自身もずっと教育に携わってきまして、今も社会人を対象に授業をしています。それぞれ年代で、考え方も違うことがあるんですけど、どんな場でもやっぱり教育に繋がってくると思ひます。このビジョンに関わらせていただきまして、地域の人からの視点、それから実際に学校を見させていただきまして子どもたちの視点、それから保護者の視点でいろんなところでさせていただきまして、私自身も非常に、勉強になりました。

それと同時に自分は小学校時代にどうだったか、中学校時代にどうであったかと振り返ることもありました。あの時、何を教えたかなというふうなことを考えることもありました。今の子どもたちも今の時代をどう過ごしてきたかがしっかり記憶に残るような生活をぜひ送ってほしいと思ひます。そして、もちろんこれから20年後どうなるかわかりません。いろんなところで、難しいこともたくさんあると思ひますけど、記憶に残るようなものを作ってあげてほしいと思ひます。

この前、せつかく教員を目指して頑張ってきた人が自分で考えていた教員生活でなかった、これではもうやっていけないと、せつかく教員採用試験通って教員になったがもう辞めてしまったという新聞の記事を見ました。ちょっと残念な、寂しい思ひもしました。その人は本当に教育が好きで、先生は辞めたけど何らかの教育で携わっていきたくて書いてありました。ぜひ、子どもたち、保護者、先生方、あるいは地域の人々が一体となって教育を進めるような施策をこれからも実行してほしいと思ひますし、我々もこの委員に携わった関係で終わりではありません。またいろんな形でバックアップをしていきたいと思ひますので、市の教育委員会もいろんな声を聞いてバックアップし、これからの松阪市の教育をもっともっと素晴らしいものにしてほしいと思ひます。本当に2年間ありがとうございました。

あと何か、よろしいでしょうか。教育長、何かありますか。

教育長

皆さんの思いを聞かせていただきました。それが今回のこのビジョンの細部に入っているのだなと、皆さんのメッセージをしっかり受けとめさせていただきました。「教職員が忙しいのに、ビジョンの全項目もできるか?」、そういうご意見もいただきます。委員が「いや、困ったときに見る羅針盤なんです」とおっしゃいました。まさにそうだと思います。私が教育長になったときから、現場が困ったときにふと横を見たら教育委員会がいる、というキャッチフレーズでさせていただいています。先生方がいろんなことで迷う、困る、あるいは保護者が自分の子どもへの教育に迷ったときに何を根拠とするのか。やっぱりこのビジョンかなと思います。冒頭で皆さんが、「私が言った意見がきちんとこう記載されている」あるいは「細部に至るまで本当に気配りをされた表現になっている」とおっしゃられました。これも、事務局冥利に尽きると思います。委員の皆さんの思いや願いをきちんと文書に落とし込んでいく作業の中に、委員の皆さんの熱意や思いが伝わって参ります。本当にどうもありがとうございました。

「教育は未来志向型のロマンである」、私どもが最初に務め仕えた教育長がいつも言われる言葉です。「今がどんなに苦しくても先をしっかり見据えて語ることができる、夢を語ることができる、教育はそんなロマンなんだ。それを支えているのは信頼なんだ」、私がまだ若い頃先生にこの話をさせていただいたのを思い出します。教育は変えてはいけない部分は変えてはいけない。例えばコロナの感染症対策なんかは勇気を持って、スピード感を持ってやらなれないといけない。いわゆる教育の不易と流行をしっかり守っていかなければならないということも、今日皆さんの思いから伝えていただきました。私ども教育委員会は、いただいた提言とそこに込められた思い、願い、あるいはこれを元に育つ子どもの姿、これをしっかりとバックアップをしながら、教育委員会の一つの大きな柱としてビジョンを活かしていきたいと思っております。

2年間、様々なところでご意見をいただき、正直、事務局がちょっと困ったところもあったように思いますけれども、それは子どもの姿、思いを叶えていきたいという皆さんの思いでしたので本当に心より感謝申し上げます。また、傍聴にこられました方々や、あるいはパブリックコメントをくださった方など本当に多くの方にこのビジョンを支えていただきました。そういった方々にも、心より感謝を申し上げて皆さんへの感謝の気持ちを表せたらなと思います。発言する機会をいただきまして、ありがとうございます。

委員長

皆さん、教育長の熱い思いをご理解していただいたと思います。立派なビジョンにさせていただきました。ありがとうございます。またこれからも松阪

市の教育にいろんな形で関わっていただきたいと思います。
協議事項につきましてはこれですべて終了になりますので、進行を事務局の方へお返しいたします。

事務局 委員の皆さんにおかれましては、長時間にわたりご協議をいただきまして、誠にありがとうございました。

それでは最後に二点ほどご連絡させていただきます。まず、今後の答申予定についてご連絡をいたします。先ほどのご協議で、答申案についてご承認いただきましたので、本検討委員会を閉じさせていただいた後、委員長より教育長に対して答申をいただきたいと思います。また、答申をいただきました新教育ビジョンにつきましては、1月27日に開催されます松阪市教育委員会定例会において、協議事項として提案し、教育委員の皆さんにご承認をいただきたいと思っております。

それからもう一点が、松阪市教育ビジョン答申案の最終ページの方をご覧いただきたいと思います。68ページの委員名簿でございます。こちらの名簿を教育ビジョンに掲載させていただく予定でございます。所属、役職、経歴等は委嘱時のものでございます。記載に誤りがある場合には、この後、事務局の方までお知らせをいただきたいと思います。

それでは、これをもちまして、第7回松阪市教育長の検討委員会を終了いたします。およそ2年間にわたりまして真摯なご協議をいただき、誠にありがとうございます。